

4	款	衛生費	1	項	保健衛生費	1	目	保健衛生総務費		
事業	事務事業名	救急医療対策費						担当	部名	福祉保健部
	294	予算事業名	(救急医療対策費)						課名	保健センター
基本事項	事業期間	開始年度	平成 17 年度	終了年度			実施方法 (H27)	電話	52-7070	
	総合計画	施策の大綱	第 2 部	健康でみんなが支え合うまち		業務委託				
	政策(章)	第 3 章	医療体制の整ったまちづくり		一部業務委託					
	施策(節)	第 1 節	医療体制の充実		市直営					
根拠法令等	医療法									
事業目的	対象	誰を・何を	全市民							
	意図	どのような状態に	初期救急医療体制による休日における急病患者の医療を確保する。							
成果指標	事業目的を達成する指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	指標名			
		日	73	73	72	73	在宅当番実施延日数			
事業内容	手段	どのような方法で	休日在宅当番医制の実施							
			活動指標	内容(手段)の量を提示	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	指標名
備考	その他説明を要する事項									
	事業コスト	項目(単位:千円)	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	事業コストに関する特記事項			
財源内訳	直接事業費	7,048	7,048	7,048	7,048					
	(当初予算額)	(7,048)	(7,048)	(7,048)						
	うち臨時職員人件費									
	国・県支出金									
	地方債									
その他										
一般財源	7,048	7,048	7,048	7,048						
個別評価	評価項目	説明								
	妥当性 (a~c)	a	富山県医療計画に基づき、県の救急医療の体制が整えられている。							
	有効性 (a~c)	a	休日の救急患者の受け入れ態勢が確保されている。							
	効率性 (a~c)	a	射水市医師会の協力により実施している。							
総合評価 (1次評価)	評価結果 (A~C)	A	現行どおり事業を進めることが適当						評価結果 (A~C)	
	今後の方向性	改善内容・現行どおりとする理由等						評価委員会のコメント		
	廃止・休止	休日の初期救急医療体制の確保に必要である。								
	規模縮小									
	統合・連携									
	民間活用									
	負担適正化									
	やり方改善									
現行どおり										
拡充										
総合評価 (2次評価)										

4 款	衛生費	1 項	保健衛生費	1 目	保健衛生総務費		
事業	事務事業名	救急医療対策費				担当	部名 福祉保健部
	294	予算事業名	( 救急医療対策費 )				課名
						電話	5 2 - 7 0 7 0
評価項目	評価の視点	内容 (該当は、非該当は×) 内部管理事務の場合、妥当性の判定は行わない (妥当性を a とする)					判定
妥当性	実施意義・市民ニーズ	社会経済情勢の変化や当初目的の達成状況、市民ニーズなどを勘案しても、事業の実施意義は低下していない。					
	民間競合	民間と競合していない、あるいは事業の実施により民間事業者を圧迫していない。					
	受益者・費用負担	事業内容 (手段) の受益者は、公益性が認められる場合を除き、一部に偏っていない。また、受益者負担あるいは市の負担は適正であり、公平性・公正性が保たれている。					
有効性	政策体系との整合性	事業の成果 (意図) が、上位施策の目標達成に結びついている (貢献している)。					
	統廃合・連携余地	目的及び対象が類似・重複する事業はなく、他に目的を達成する手段はない、あるいは他に手段があっても、統廃合や連携の余地がない。					
	成果の向上余地	事業内容 (手段) を工夫しても、成果を向上させる余地はない。					
	事業継続による影響	事業を継続することで、更なる成果が期待できる。					
効率性	従事人員削減余地	現在の成果を維持しつつ、事業内容 (手段) の業務プロセスの最適化等により正規職員の従事人員や業務従事時間を削減する余地はない。					
	直接事業費削減余地	現在の成果を維持しつつ、事業内容 (手段) の事務改善や契約方法の変更等により直接事業費を削減する余地はない。					
	実施主体見直し余地	民間活用・外部委託の拡大や市民協働事業化等による実施主体の見直しについての検討の余地はない。					
評価結果	個別評価 ( a ~ c )	妥当性	有効性	効率性	総合評価 ( A ~ C )	評価結果	
		a 適合	a 適合	a 適合		A	現行どおり事業を進めることが適当

性質	交付先区分	類型区分						
	補助区分	算定方法						
交付状況	項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	特定財源	項目	
	補助金等交付件数							
	補助金等交付額							
交付団体状況	うち一般財源						事務局体制	
	項目	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	項目		
	交付先歳入決算額							
	補助金の占める割合							
	交付先歳出決算額							
	次年度繰越額							
事業目的	対象	誰を・何を					法人会員数	
	意図	どのような状態に						個人会員数
事業内容	手段	どのような方法で						

4	款	衛生費	1	項	保健衛生費	1	目	保健衛生総務費													
事業	事務事業名	病院群輪番制病院運営事業補助金										担当	部名	福祉保健部							
	295	予算事業名	( 救急医療対策費 )										課名	保健センター							
基本事項	事業期間	開始年度	平成 17 年度	終了年度																	
	総合計画	施策の大綱	第 2 部	健康でみんなが支え合うまち																	
		政策(章)	第 3 章	医療体制の整ったまちづくり																	
		施策(節)	第 1 節	医療体制の充実																	
	根拠法令等	医療法																			
事業目的	対象	補助金等交付先	射水市民病院																		
	意図	補助金等交付目的	第二次救急医療体制による二次救急病院の夜間における地域住民の急病者の医療を確保する。																		
成果指標	事業目的を達成する指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	指標名														
		人	182	146	151	150	受診患者数														
事業内容	手段	補助金等の交付を受ける実施する主な活動	病院群輪番制により、24時間365日、重症救急患者の救急搬送を受け入れ必要な治療を行う。また、病態に応じ、速やかに第三次救急医療体制である救命救急センターと連携している。 ・救急医療についての相当の知識及び経験のある医師を確保する。 ・救急医療を行うための設備、施設を確保する。 ・救急患者のための病床又は専用病床を有している施設を確保する。																		
		活動指標	補助金等交付件数	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	指標名												
			件	1	1	1	1	補助金交付件数													
備考	その他説明を要する事項																				
事業コスト	項目(単位:千円)		H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	事業コストに関する特記事項														
	直接事業費(補助金等交付額)		1,066	1,066	1,066	1,066															
	(当初予算額)		(1,066)	(1,066)	(1,066)																
	うち臨時職員人件費																				
	財源内訳	国・県支出金		88	88	88	88														
地方債																					
その他																					
一般財源		978	978	978	978																
個別評価	評価項目		説明																		
	妥当性(a~c)	a	富山県医療計画に基づいている。																		
	有効性(a~c)	a	救急患者が症状の程度により適切な診療が受診できる。																		
	効率性(a~c)	a	高岡医療圏で6施設が確保されている。																		
総合評価(1次評価)	評価結果(A~C)	A	現行どおり事業を進めることが適当													評価結果(A~C)					
	今後の方向性	改善内容・現行どおりとする理由等													評価委員会のコメント						
	廃止・休止	富山県医療計画に基づき、救急医療の確保のため、補助金を継続する。																			
	規模縮小																				
	統合・連携																				
	民間活用																				
	負担適正化																				
	やり方改善																				
現行どおり																					
拡充																					
総合評価(2次評価)																					

4 款	衛生費	1 項	保健衛生費	1 目	保健衛生総務費		
事業	事務事業名	病院群輪番制病院運営事業補助金				担当部	福祉保健部
	295	予算事業名	(救急医療対策費)				課名
						電話	52-7070
評価項目	評価の視点	内容(該当は、非該当は×) 内部管理事務の場合、妥当性の判定は行わない(妥当性をaとする)					判定
妥当性	実施意義・市民ニーズ	社会経済情勢の変化や当初目的の達成状況、市民ニーズなどを勘案しても、事業の実施意義は低下していない。					
	民間競合	民間と競合していない、あるいは事業の実施により民間事業者を圧迫していない。					
	受益者・費用負担	事業内容(手段)の受益者は、公益性が認められる場合を除き、一部に偏っていない。また、受益者負担あるいは市の負担は適正であり、公平性・公正性が保たれている。					
有効性	政策体系との整合性	事業の成果(意図)が、上位施策の目標達成に結びついている(貢献している)。					
	統廃合・連携余地	目的及び対象が類似・重複する事業はなく、他に目的を達成する手段はない、あるいは他に手段があっても、統廃合や連携の余地がない。					
	成果の向上余地	事業内容(手段)を工夫しても、成果を向上させる余地はない。					
	事業継続による影響	事業を継続することで、更なる成果が期待できる。					
効率性	従事人員削減余地	現在の成果を維持しつつ、事業内容(手段)の業務プロセスの最適化等により正規職員に従事人員や業務従事時間を削減する余地はない。					
	直接事業費削減余地	現在の成果を維持しつつ、事業内容(手段)の事務改善や契約方法の変更等により直接事業費を削減する余地はない。					
	実施主体見直し余地	民間活用・外部委託の拡大や市民協働事業化等による実施主体の見直しについての検討の余地はない。					
評価結果	個別評価(a~c)	妥当性	有効性	効率性	総合評価(A~C)	評価結果	
		a 適合	a 適合	a 適合		A	現行どおり事業を進めることが適当

性質	交付先区分	個人	類型区分	団体運営費補助	事業費補助	施設等整備補助
		団体		政策的補助	格差是正補助	利子補給等
	補助区分	定額		算定方法 85,243円×25日×1/2		
		定率				
		その他				
交付状況	項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28見込	特定財源
	補助金等交付件数	1件	1件	1件	1件	なし(市単独補助)
	補助金等交付額	1,066千円	1,066千円	1,066千円	1,066千円	国補助( % )
	うち一般財源	978千円	978千円	978千円	978千円	県補助( % )
	項目	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	事務局体制
交付団体状況	交付先歳入決算額	( )				非該当・事務局なし
	補助金の占める割合					担当課が主体
	交付先歳出決算額					交付団体が主体
	次年度繰越額					その他
	歳出に占める割合					↳ ( )
事業目的	対象	射水市民病院				
	意図	第二次救急医療体制による二次救急病院の夜間における地域住民の急病者の医療を確保する。				
事業内容	手段	病院群輪番制により、24時間365日、重症救急患者の救急搬送を受け入れ必要な治療を行う。また、病態に応じ、速やかに第三次救急医療体制である救命救急センターと連携している。				
	補助金等を受け実施する主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療についての相当の知識及び経験のある医師を確保する。</li> <li>救急医療を行うための設備、施設を確保する。</li> <li>救急患者のための病床又は専用病床を有している施設を確保する。</li> </ul>				
団体構成員	会費負担あり		会費負担なし		法人会員数	団体
会費負担	↳ (会費: )				個人会員数	人